

ルンアルン(暁)プロジェクトをご支援くださる皆様へ

2018年12月20日

今年も残すところ後僅かとなりました。皆様お元気でお忙しい日々をお過ごしのことでしょうか。いつもルンアルン(暁)プロジェクトをご支援いただき、誠にありがとうございます。お陰様で暁の家のスタッフ、研修生も皆元気で、日々の活動に励んでおります。2011年に山の畑に定植した5,000本のコーヒーの木も順調に育ち、豊かな収穫をもたらしてくれています。

報告書の作成が遅れていますことをお詫び申し上げます。

2017年度はルンアルンプロジェクトの30周年に当たり、4月と12月に同窓会を開き、それぞれ27名、40名の卒業生が参加しました。卒業生会会長として、リス生徒寮の第一期生、アルパことウィラポン、副会長に第4期生のオラピン、暁の家の元スタッフのトゥックことガンタラーラックが選ばれ、彼らを中心に、これからのプロジェクト支援、卒業生同士のネットワーク作りに取り組んでくれることになりました。



30周年記念プロジェクトとして、水源の森プロジェクトをスタートさせました。生活用水に事欠くようになってきた山の村々が安定した水路を確保し、より良く居住するための環境を作っていくためには、木を植えて水源を守ることが欠かせません。暁の家では山の村と協働し、森の木の苗木を育て、もう耕作しないと村人が決めた畑等に木を植えて水源となる森を広げていくことにしました。この活動は10年続け、新たな森の広がり与人々の生活環境の向上を見届けたいと考えています。



2018年度の特記すべき出来事は、学校外教育で週に1回のスクーリングを受けながら暁の家で卒業訓練を受けていたミチュとブスムが、合計4年間の中学、高校課程を無事卒業できたことです。二人とも国籍がなく、貧しい家族を支えながらの4年間でした。ミチュ、ブスムとも暁の家のスタッフとなり、ブスムは土曜日曜は学生として、チェンマイラチャパット大学に通っています。たとえ国籍を取得することが難しくとも、暁の家で働きながら学んだ経験がこれからの生きていく力になればと考えています。

コーヒーは今、収穫の最盛期を迎え、摘み取り、洗浄、天日干し作業に追われています。昨年は一昨年の2.5倍、2.5トンの収穫がありました。多くの方々のご協力があり、販路は順調に伸びています。10月には5キロ用の焙煎機を導入することができました。

今回も野田喜男様の資金援助をいただきました。誠にありがとうございました。

ただ、コーヒーの実の恐るべき害虫、ベリーボローラーが北タイの山々に蔓延し、コーヒー栽培で支援した農家は大きな被害を受け、暁の家のコーヒー農園でもまだ僅かとはいえ、害虫に食い荒らされたコーヒー豆が見つかるようになりました。

有機栽培のコーヒー園の害虫を駆除するためには、手間と根気が必要です。コーヒーの実の摘み取り作業が終了する来年2月と3月に、畑に残されたコーヒーの実を一掃するための人海作戦を実施することにしました。2月上旬に暁の家のコーヒー園、3月中旬はサンクラン村のラフの人々の畑です。志願される方がありましたらぜひご参加ください。交通費はご負担いただきますが、ホームステイ費用と食費はプロジェクトで負担いたします。

思いがけないコーヒー収入の向上で、昨年度は暁の家の収入 1,700,087.50 バーツの内、30万バーツはコーヒー収入から得たものです。暁の家の諸経費は 1,488,272 バーツで、211,815 バーツを今年度に持ち越すことが出来ました。2016年度は支出が収入を上回ってしまいましたが、前年度で回復したと言えます。円安が続き、せつかくの皆様からの会費、寄付金が目減りしてしまうことが残念ですが、近年の暁の家の経費は年額 500 万円を超えるようになっています。暁の家の会計報告も遅れて申し訳ありませんが、今年度終了時点で一緒にご報告させていただきます。

現在の暁の家は、スタッフはロージー、シレー、ヤーシー、ブスム、ミチューと私の6名、研修生はバオとアミの合計8名となりました。奨学金で支援する高校生、大学生は、21名、今年度初めて全員女子となりました。田植え、交流会、コーヒー摘み取り作業などにも参加しています。

皆様、どうぞ良いお年をお迎えください。
2019年もよろしく願い申し上げます。

ルンア alun(暁)プロジェクト
代表 中野徳積

